

# 学校の自己評価ってなに？



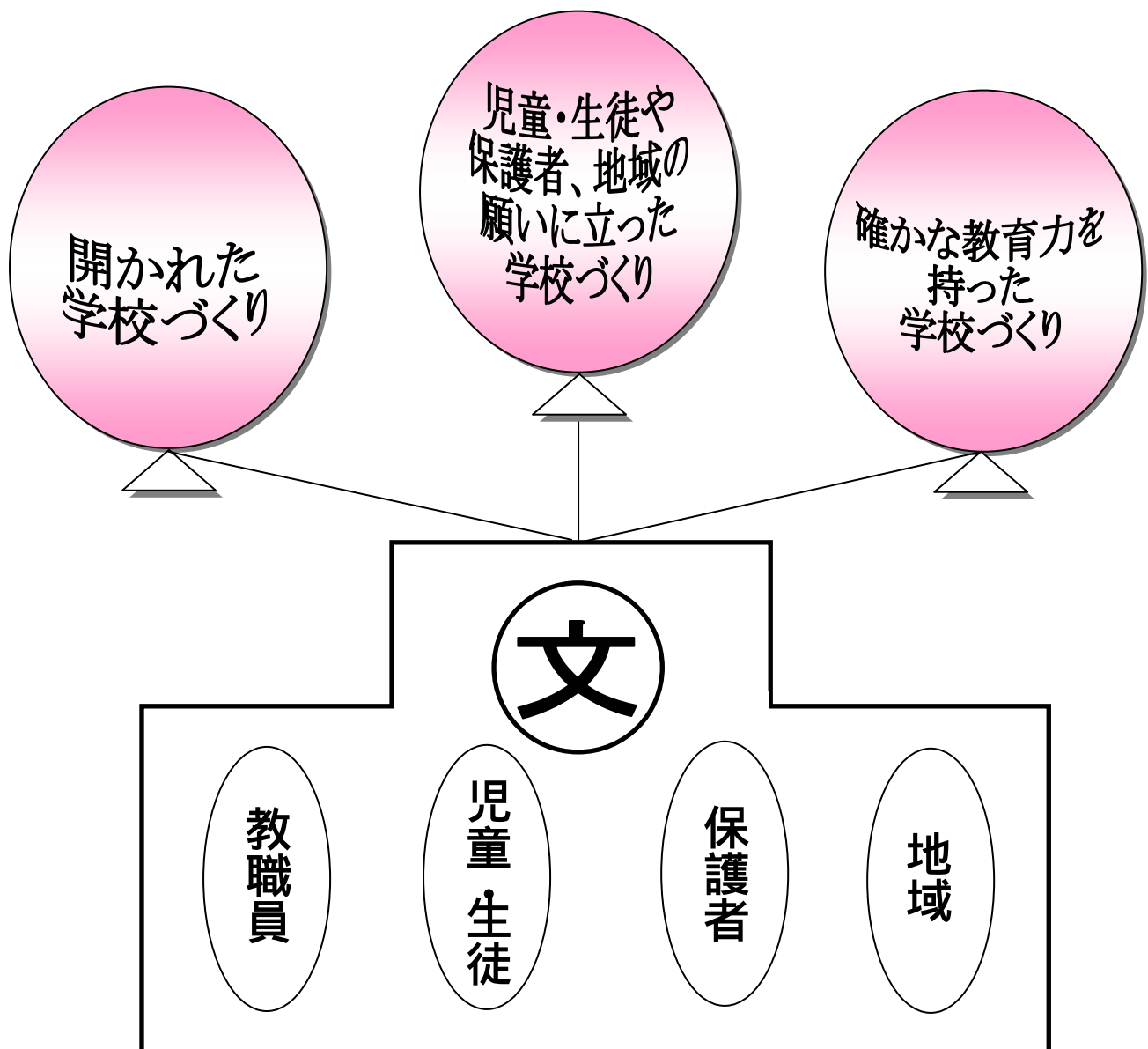
三重県総合教育センター

## よりよい学校をつくろう

子どもたち誰もが「今日は何があるのかな。」と、わくわく心をはずませて学校をめざし、いきいきと目を輝かせ、たくさんの仲間とともに学び、そして一日の生活を終え家路につくとき、「ほんとうによい一日だった。明日はこれを・・・。」と思えるような学校をつくりたい。私たちは、児童・生徒と教職員一人ひとりが生き生きとしている活力のある学校、そして児童・生徒や保護者、地域との確かな連携がとれている信頼される学校をめざしています。

そのためには、「開かれた学校づくり」「児童・生徒や保護者、地域の願いに立った学校づくり」「確かな教育力を持った学校づくり」を、児童・生徒、保護者、地域との協働のもとで進めていくことが大切です。

### めざす学校の姿



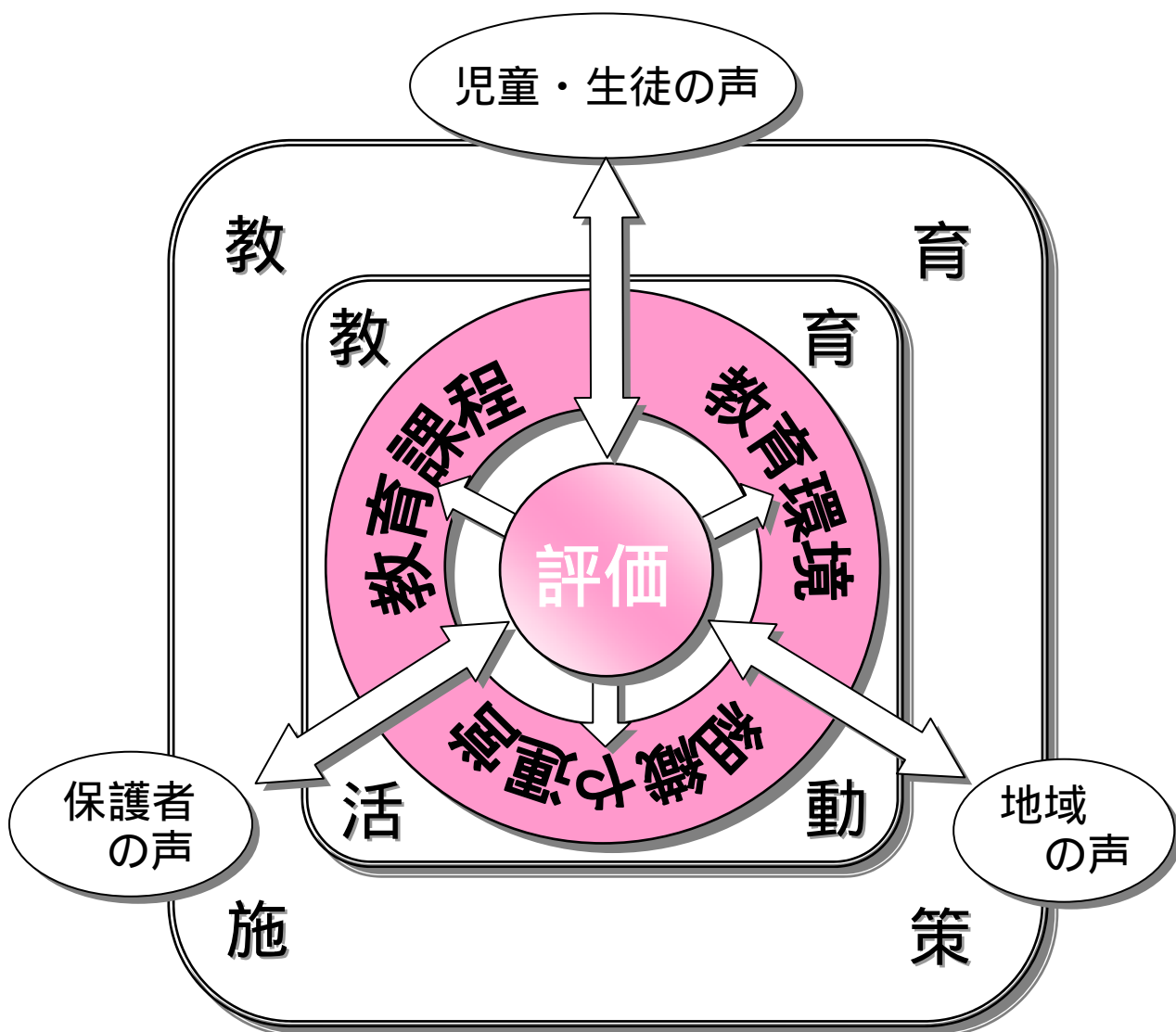
## なぜ学校の自己評価を行うのでしょうか

学校における教育活動は、学校が自らの責任のもとに、主体性をもって意図的・計画的に行います。学校は、これまでも責任を持って自ら評価・反省等を行ってきました。

しかし、これからの学校の自己評価は、教育活動を見つめ直し、めざす学校の姿や子どもの姿にどう近づくことができたのかという視点で振り返り、次の教育活動を創り出していくことを大切にしなければなりません。学校の自己評価は、これからの学校づくりに必要な活動です。

## 何を評価するのでしょうか

教育課程（教科・生徒指導・行事等）や組織・運営（校務分掌・地域連携等）、教育環境（教材・施設等）などについて評価していきます。



## Q and A

Q：学校の自己評価を何のためにするのですか

A：子どもたちが集う「学校」をよりよいものにするために行います

学校が行っている教育活動が子どもたちにとって、適切であったかどうかを考えるために行うのです。そして、その経過の中で、常に子どもや保護者、地域と情報を共有しながら、進めていきます。

Q：これまで行ってきた評価活動とどこが違うのですか

A：次の点を大切にしています

めざす姿や達成目標を明らかにしています

結果から、教育活動の適切さを評価します

評価したことを次の計画に生かします

情報の交流をもとに、常に、保護者や地域との連携を大切にします

学校の自己評価についての参考資料がセンターのホームページに掲載されていますので、ご覧下さい。

三重県総合教育センター

企画振興部 調査研究担当

〒514-0007 津市大谷町1 2 番地

TEL 059-226-3526

FAX 059-226-3706

URL <http://www.mpec.jp>

Q：学校の自己評価をすると、何がわかるのですか

A：学校という組織のもっている強さ（良さ）や弱さが見えてきます

学校の自己評価で考えることは、めざす学校の姿に近づいたかどうかです。そのことを学校として、組織として評価するのが「学校の自己評価」です。まず、何を、どう評価するかなど、学校の自己評価について、各校で十分検討することが大切です。そして、共通理解にたつて、教育活動を行い、評価に取り組んでいきます。

Q：学校の自己評価は、どのように進めていくのですか

A：次の4点を大切に進めていきます

共通理解を図ります

校内研修会や職員会議等で十分話し合い、学校自己評価についての共通理解に立って進めます。

めざす姿を具体的に考えます。

保護者や地域へ説明することも必要になってきます。ですから、具体的でわかりやすい姿を設定します。

評価の方法を検討します

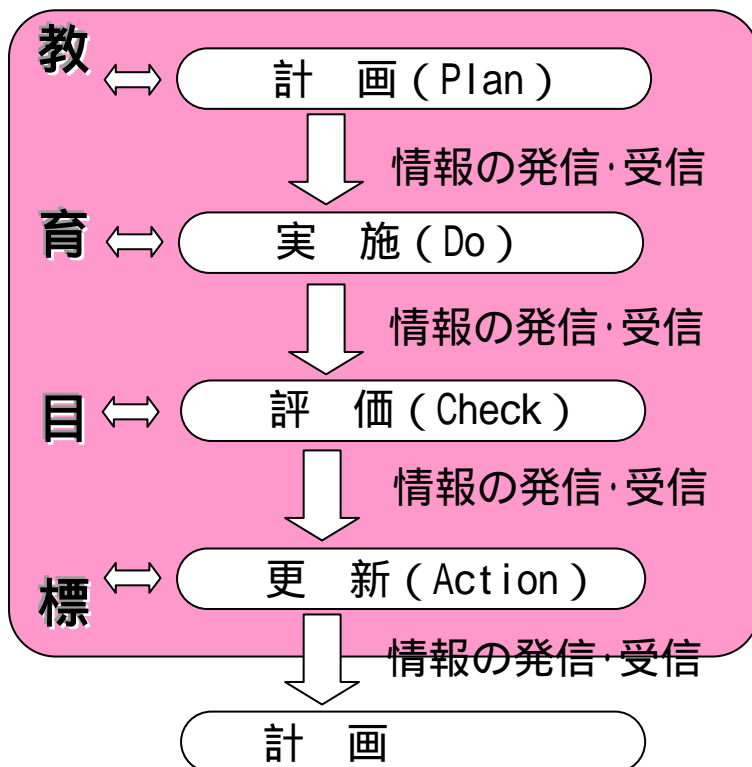
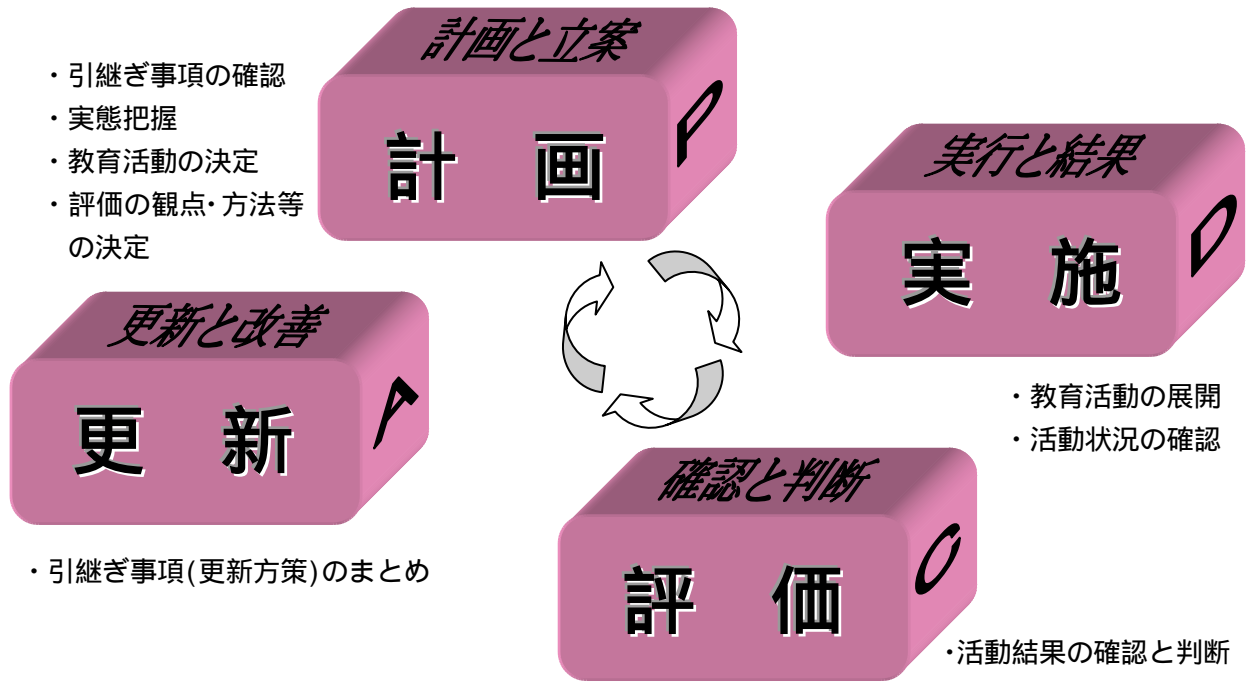
どんな方法であるのか、何を基準とするのかなどを、教育活動の計画を立てるときに、検討しておきます。

中間評価の時期を考えます

子どもの実態に合わせより適切な教育活動を展開するために、中間評価を行い計画の修正や継続を判断します。

# どのように学校の自己評価を行うのでしょうか

学校の自己評価は、単に評価を行うというだけでなく、教育目標に基づき計画を立て、実行し、実施したことを目標や計画に沿って評価し、その結果をもとに更新に至るというシステムの中で行っていきます。そのとき、すべてのプロセスの中で、情報の発信・受信が行われることが大切です。



このサイクル全体を学校の自己評価ととらえています。

教育目標や計画に基づいて、児童・生徒・保護者・地域住民の声を把握しながら評価します。

分かりやすく具体的な観点を事前に設定し、それをもとに評価します。

活動の途中でも評価を行い、ねらいの達成に向けて活動を更新していきます。

## 評価をどう生かしていくのでしょうか

自己評価することによって、各学校が持っている「良さ」や「見直す点」、「必要と思われること」について明らかになるでしょう。これらの明らかになった点を発展・伸長、工夫、創出することによって、教育活動を一層充実させるとともに、教育施策へも反映されることが考えられます。その結果として、めざす学校の姿に近づいていくことになります。

### 評価から見えてくること

